

アシュモレアン博物館「Tokyo: Art & Photography」
バーチャル・オープニング・イベントにおける
林駐英国大使挨拶
(令和3年7月29日)

本日関係者の皆様のご参加を得て、「Tokyo: Art & Photography」展が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

1683年に世界初の公共博物館として、また、世界初の大学博物館として開館したアシュモレアン博物館と日本との関係には深いものがあります。1960年に戦後の日英両国間の文化・学術交流を促進する目的で合意された日英文化協定の一環で日本政府から寄贈された現代版画作品40点は、同館の現代版画コレクションの基礎となっています。また、“スポーツの宮様”として国民に親しまれ、オックスフォード大学にご留学経験のある秩父宮様から寄贈された甲冑は、同館の日本ギャラリーのセンターピースとなっております。

このように我が国と縁の深い同館で、今般、東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、東京をテーマとした本展が開催されることは、非常に意義深いものであります。

本展は、京都を中心として発展した伝統的宮廷文化とは対照的に、近世以降の江戸・東京が、大衆文化・前衛文化の担い手となり、国際的ハブに発展した課程を、様々な芸術媒体を通じて考察する、画期的な内容です。

先週開幕した東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナ・ウィルスという大きな困難に直面する今だからこそ、世界が団結し、人類の努力と叡智によって、難局を乗り越えていけることを日本から世界に発信したいとの思いで、また、「スポーツの力」を通じて、世界の未来をになう、子どもや若者に、夢と感動を伝えたいとの思いで、開催されています。同時に、この大会は、今からおよそ10年前、当時各国から多大な支援をいただいた東日本大震災から、日本が復興を遂げた姿を伝える機会にもなると考えています。安全・安心な東京大会の開催に向けて、万全な感染対策を講じ、準備を進めてまいりました。世界のトップ選手が、最高の競技を繰り広げることを期待しております。加えて、この日本に対する関心が高まる時機をとらえて開催される本展を通じ、未来指向の社会に向かって調和のある歩みを続けていく国際都市東京への理解が更に深まることを期待しています。

最後になりましたが、本展覧会開催にあたりご尽力されました、アシュモレアン博物館スタージス館長、ポラード学芸員、フリッチ学芸員をはじめとした、関係者の皆様に深く敬意を表します。そして、貴重な芸術作品の出品をご承諾いただいた所有者の皆様、サポーターの皆様など、この展覧会の開催にご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げますとともに、本展覧会の成功を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ご静聴有難うございました。